

都留第二中学校だより

日新

校訓 日新
学校教育目標
・美しい心
・輝く知性
・たくましい体

都留第二中学校学校だより
NO8

平成29年7月20日(木)
文責 小俣 一夫

親子が共に成長していくために！

先日、雑誌のコラムにこんな記事が載っていましたので紹介します。
「・・・主人が亡くなってから、私はビル清掃会社の仕事をしながら 2 人の子どもを育てています。そんな私が悲しく思うことは、昔から学校では、何かあると「罰」として掃除をさせてきているということです。勿論、私自身が学校に通っている頃も、時として、掃除は罰として存在していました。「掃除（清掃）」は何かの罰としてやらされるような良くないことなのでしょうか？私のほかにも「掃除」を職業として生計を立て、子育てをしておられる方もいると思います。そんな家庭の子どもたちは、親の仕事や掃除に対してどんな思いを持っているのでしょうか？・・・以下略」

教師として、とても深く考えさせられる内容の記事でした。確かに、生徒の多くは「掃除」はやらされていると思っているでしょう。現在では、「家では子どもに掃除などさせていないので、学校でもさせないで下さい。」というような苦情の電話もあるそうです。

つい、自分の学生時代の体験を語るときなどには、「掃除なんかさぼるもんだよ！」等と言ってしまいがちです。でも、そんな大人の話聞いた子どもたちは進んで掃除をしよう・・・などとは思わないだろうし、掃除に対する前向きな気持ちも育ってはいかないと思います。

子どもたちも、やがて社会人になれば、目的や意識を持って掃除をするときが来ると思います。自分が働く職場やその職場のトイレが汚ければ、働く人だけでなく、職場（会社）を訪れる人も不快な思いをしようし、会社の信用問題や営業成績にもつながることがあるかもしれません。

本校でも、掃除の大切さを見つめ直そうという目的で設立された「日本を美しくする会 掃除に学ぶ会」の皆さんの協力を得て、トイレ掃除を毎年行っています。本校のこの事業は、PTAの保健体育研修部が主催して、2年生と保護者の参加を得る中で、「都留二中を美しくする会（トイレ掃除）」という名称で毎年行っています。今年度は9月24（日）に計画しています。

大人の中でも「掃除」に対する考え方は様々です。でも、たとえ「やらされてきた」掃除であっても、大人（社会人）は「職場がきれいであると働く意欲が出てくる」ということを体験で知っています。また、「家の中が片付いていなくて、掃除が行き届いていなければ、落ち着いて生活できない。」ことも分かっています。まれに、汚れている方が落ち着くという方もいるかもしれませんが・・・。子どもたちに勉強させることは必要です。それと同時に、勉強に適した落ち着ける生活環境づくりも欠かすことのできないものだと思います。そして、自分の環境を自分で整えていくという気持ちを作っていくために掃除は欠かせないものです。

少し前になりますが「トイレの神様」という歌が流行りました。その歌詞は「トイレには それはそれはきれいな女神様がいるんやで だから毎日キレイにしたら 女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで！」というものでした。こんな気持ちの持てる子どもは、誰からも愛される人、心配りのできる人といえるのだと思います。たかが掃除、されど掃除です。「一つ拾えば 一つだけキレイになる」です。

いよいよ夏休みです。中学生の子どもを一から十まで、全てを見ることはできませんが、一回でも多く、わが子と腹を割って話をする機会を持って欲しいと思います。

夏休みを親子の成長にとって有意義な時間にしてください！

地区懇談会 大変ありがとうございました。

7月3・4日にPTA校外指導部主催の地区懇談会を、本校の学区を出身小学校区に分けて、6地区（谷一小 禾二小 禾一小 宝小 旭小 学区外）において実施しました。

この地区懇談会は「家庭と学校との連携の中で、子どもたちの健全育成について考える場にする。」という目的で毎年行っています。

今年度のテーマは「家庭での学習」でしたが、参加者からは、各家庭での学習への取り組みの様子が話され、今日から我が家としては、どんな取り組みをさせなければいけないのかというような点について再確認できたのではないのでしょうか。



禾二小地区懇談会



宝小地区懇談会

生徒の皆さんへ 1学期を振り返って 夏休みの課題を持とう！

71日間の1学期が今日で終わります。一人一人がこの1学期を振り返ってみてください。

4月には全員が目標を持ってスタートしたはずですが、そして、各自の頑張りや努力で、この71日間での成果が出たのでしょうか？（・・・という意味で）ただ漠然と過ごした人はいないと思いますので、各自の1学期の状況は①～④のどれですか？



- ①自分の目標が達成できた。
- ②けっこう順調に進んでいる。
- ③途中であきらめた。
- ④始めから目標なんてなかった。



1年生にとっては、中学校生活すべてが初めての経験であったと思います。先輩、中間や期末の定期テスト、毎日練習がある部活、八ヶ岳青少年自然の家での宿泊学習、選手権大会や総合体育大会、壮行会、英語の授業……、小学校時代には経験のなかった新しいものだったでしょう。はじめは、どきどきとわくわくの連続であった中学校生活にもこの3か月ですっかり慣れ、113名全員が確実な歩みを続けてくれており、都留二中375人分の113人として、学校を支える一人となって、たくましく成長してくれていることを大変に嬉しく思います。

2年生は、生徒会活動でも、部活動でも3年生をフォローしながら、組織の推進役に関わり少しずつリーダーシップを発揮し活躍してくれています。特に2年生にとって1学期の最大の学習は愛宕山に泊まった「山梨探訪」ではなかったでしょうか。まずは、全員がゴールできたことが大きく評価できる点であると思います。スタートしたのだからゴールするのは当たり前だと思いがちですが・・・全員が無事にゴールすることは、各班ごとに一人一人が目標を持って行動し、そこには、協力や思いやる心、自主性や協調性、これまでの成長の中で身につけた様々な力を駆使して活動できた・・・というような点から、大きな成果を上げることができた山梨探訪であったと思います。次はこんな「チーム黄学年」としての団結力を2学期の石花海祭に生かせるよう継続して頑張ってもらいたいと思います。

また、2年生の夏休みには「職場体験」も計画されています。皆さんは、この体験を通して「働くことの大変さ」「責任感やチームワーク」「人に対する気遣い」や「真剣に取り組むことの大切さ」また、「一日が終わったときの充実感や満足感」等々、様々なことを学ぶことができるのではないかと期待しています。ぜひ、意義のある体験にしてください。

3年生にとっては、最後の中学校での1年間という思いが強くあると思います。最後の選手権、最後の総体、最後の壮行会・・・と学校生活のすべてが、中学校最後のイベントとなっているのでしょうか。そんな中で2泊3日の修学旅行は、きっといつまでもいつまでも心に残る、非常に印象深い行事になったのではないかと思います。「巡ろうか 想いを込めて奈良・京都」をスローガンに取り組んだ修学旅行でした。

興福寺の阿修羅像の前でじっと見入っている人、鹿にまたがって記念写真を撮った人もいました。西大寺では大きな茶碗に顔までしっかりと入れて味わった人、夜中まで、コソコソと友だちと語り青春をしていた人、建仁寺の座禅で、自分のこれまでの行いを振り返り、修学旅行後には改め、生き方を変えた人・・・悩んだときには「おい悪魔です。」？（日新4号に書きました。）班別行動では、道に迷ったときに改めて友だちの行動力に感動した人。古都「奈良・京都」から学ぶことの多かった旅行となったのではないのでしょうか。私としても、かわいい子どもたちに旅をさせて本当に良かったと思っています。

さて、ここで、目標を再度、見つめ直してください。達成できた人、ちょっとさぼってしまった人、軌道修正や再設定など、ここでもう一度考えて夏休みを迎えましょう。

3年生にとって、来年2・3月の高校入試を含めた進路選択は、これからの皆さんの人生を大きく左右します。そんな意味でも、この夏の時間を有効に使い、計画的な学習に取り組んで下さい。33日間の夏休みが全校の皆さんにとって意義ある時間となることを期待します。そして、8月23日（水）2学期の始業式に全校の皆さんの元気な笑顔に会えることを楽しみにしています。

**一生懸命すれば、知恵がでる
中途半端にすれば、ぐちがでる
何もしなければ、言い訳がでる**



3年生 高校説明会を行いました。

7月10日(月)の5・6校時、うだるような暑い日でしたが、本校体育館において7つの高等学校から担当の先生方にお越しいただき、平成30年度入学生に対する高校説明会を行いました。

- ①上野原高校 ②富士河口湖高校 ③吉田高校 ④富士北稜高校 ⑤富士学苑高校 ⑥都留高校
⑦都留興譲館高校・・・の7つこ高等学校でした。

保護者の皆様方には大変お忙しいところ、ご参加をいただき誠にありがとうございました。是非、各高等学校の特色や教育方針等も含めて、進路決定の参考としてほしいと思います。また、この説明会を機に、各ご家庭におきましては将来の職業選択も含めてのキャリアについて、親子で話し合いの機会をぜひ、持ってほしいと思います。

「将来就きたい職業がありますか?」・・・と言う質問に対して、中学3年生の「54%」の人は将来の職業について目標を持っているそうです。

進路を選択するという事は、どういうことでしょうか? 単に「どこの高校へ入る」ということを決めることではありません。それは、自分の生き方を考えるということだと思えます。



暑い中での説明会の様子

- ・自分はどんなことが好きなのか?
 - ・今の自分の力量はどれくらいか?
 - ・将来はどんなことがしたいのか?
 - ・どんな職業に就きたいのか?
 - ・こんなふうには社会のために役立ちたい・・・というような考えがあるか?
- その結果、こんな進路を選択する!・・・こんなふう考えることが大切です。



勿論、今ここで考えたことが、将来の自分とイコールではないはずですが、しかし、自分の将来のあり方について、考えてからこういう方向に進もうというのと、何も考えずにただ今の実力で受かる高校に進むのでは、きっと、そこからの進路に違いが出てくるはずですが。

つまり、今の時点で将来の自分について十分考えるということが、とても大事だということです。中学校3年生のこの時期に自分の進路を考えるうえで一番大切なのは、まず自ら考えようとする姿勢です。

そこで、自分により適した進路を選ぶためには、できるだけ多くの情報を得ることが重要になります。

また、進学にあたっては入試制度が十分に分かっていないと困ってまいります。公立高校と私立高校の違い(前期入試と後期入試)、公立・私立の選択の仕方(推薦、専願、併願)については一定のルールがあります。

さらに、高校の学科やコースによって学習内容が違い、取得できる資格にも違いがあります。私立高校は高校毎に独自の理念と教育方針を持っているので、学校の雰囲気や全く違う場合もあります。

そこで、まずはたくさんの情報を得て、選択肢の幅を広げるところから始めましょう。

保護者の皆様方には、お子様の進路選択にあたって、たくさんの悩みがあることと思います。親もしっかりと勉強しできるだけたくさんの情報を与え、子どもの選択肢を広げてあげて下さい。



親子で高校の説明を聞きました。

そして、決定までは、たくさんの助言や支援をお願いいたします。しかし、最終的に決定するのは本人です。本人が決定をしたならば、是非、全面的なバックアップをお願いしたいと思います。

この夏休みの時間を有効に活用して、今の時点での最良の選択をしてほしいと思います。



1年生 朝の会の様子



真剣な表情で話を聞く3年生? カメラ目線は止めましょう!

演劇鑑賞会で「夏の庭」を観ました。感動です!

7月7日(金)の七夕の日に、都留市教育研修センターの事業による演劇鑑賞会を行いました。うぐいすホール大ホールで行い、劇団たんぼぼによる「夏の庭」という作品を観ることができました。

この「夏の庭」という本は、湯本 香樹実(ゆもと かずみ)さんという作家が書いた作品です。きっと、全校の皆さんにとって、非常に有意義な時間になったことと思います。

さて、「宮沢 章二」さんという人の作品に「行為の意味」という詩があります。

あなたの心はどんな形ですかと
人に聞かれても答えようがない
自分にも 他人にも心は見えない
けれどほんとうに見えないのであろうか

確かに「こころ」はだれにも見えない
けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは、人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えない
けれど「思いやり」はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心があたたかい行為になり
やさしい思いがやさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる
それは、人が人として生きることだ



今、皆さんの心がどのくら豊に育っているのかわかりません。しかし、心がどのくらい成長しているかを見分ける手段として、みなさんの人に対する「心づかい」で判断できるのです。

「芸術は心を耕す!」といいます。皆さんが実際に自分の目で見たり、手で触ったり、耳で聞いたりする中での経験を通して、「すごい」とか「きれい」とか「かわいそう」・・・などというように本物に触れたり、実際の場面に遭遇したりして、自分の心が動かされたときに、皆さんの経験は自分のものとなり、心が一つ成長したということになると思います。その結果「心が耕かされた」ということになり、その心が、心づかいいにも表れてくることと思います。夏休みには、普段の生活ではできない、たくさんの経験を通して、人として大切なことを学んでほしいと思います。

生徒の感想を載せますのでお読み下さい。

3年1組 石塚菜摘さん

今日の演劇を見て、命の大切さを改めて感じる事ができました。物語の中で登場した人々が、おじいさんとの関わりを通して、だんだん命の大切さに気付いていく時に、私もその気持ちに共感できる部分がたくさんありました。また、役者さんたちが客席に降りてきてくれ、目の前で演じてくれたので、とても感動しました。さらに、テンポのいい台詞の連続で、よりおもしろく観ることができました。普段の学校生活では学ぶことのできない、貴重な時間となりました。

3年2組 杉田まありさん

今回観た演劇「夏の庭」では、いろいろなことを学びました。一つ目は、「死と向き合う」ということです。人はいつか死んでしまい、その後は、ほんの少しの骨になってしまいます。だから、今、生きることを、生きていることを大切にしようと思いました。二つ目は「迫力」です。役者さんたちの声がよく透き通っていて、いろいろな場面で感情が声に込められており、見終わった後、もう一回観たいと思いました。これからも、「死」について考えることはあると思いますが、今、当たり前前に生きているということを、大切にしていきたいと思いました。

1年2組 槇野晴月さん

「人はいつか死ぬ」それは、当たり前的事ではありますが、「死んだら、ただの骨になる」なんて考えたこともなかったから、今日の演劇を観て、そう簡単に「死ぬ」なんて言うてはいけないだなあと感じました。そして、これからも、一度しかない人生を一生懸命に生きていこうと思いました。